

7 リニア中央新幹線に関連する基盤整備に対する支援について

【国土交通省】

《提案・要望事項》

国家的見地に立ったプロジェクトであるリニア中央新幹線を地域振興に結びつけるため、一般国道153号などのアクセス道路やリニア駅の関連施設等、リニア中央新幹線に係る基盤整備について、国による整備や地方負担に対する財政支援を行うこと。

【現況、課題等】

国土の大動脈となり、世界最大のスーパー・メガリージョン形成に寄与するリニア中央新幹線の建設は、国家的見地に立ったプロジェクトである。また、関連する道路やリニア駅周辺の広場、駅利用者の利便施設、JR飯田線との連絡施設等の基盤整備は、主として地方が行うことになり、地方に大きな財政負担が生じる。このため、交付金事業等の十分な予算配分、地方負担に対する適切な財政措置、及び一般国道153号の権限代行等を求めるものである。

リニア中央新幹線開業に向けての流れ

平成23年5月	国土交通大臣、JR東海を建設・営業主体に指名 同社に建設の指示
平成26年10月	国土交通大臣による工事实施計画の認可
平成27年～	リニア駅周辺整備・リニア関連の道路整備
平成39年	東京 - 名古屋間開業予定

【長野県内の取組】

- 1 リニア中央新幹線の整備効果を広く長野県内に波及させるため、広域的な地域づくりの指針となる「長野県リニア活用基本構想」を平成26年3月に策定。また、長野県駅の駅勢圏となる伊那谷地域においては、伊那谷自治体会議を設置し、「リニアバレー構想」を平成28年2月に策定。広域観光、二次交通、まちづくり等のテーマに分けて、有識者や地元市町村などとともに議論を深めている。
- 2 リニア関連道路の整備として、広域幹線道路である国道153号の機能強化や中央自動車道とリニアの一体化などの観点から、10箇所について、リニア開業時までの効果発現を目指して整備を推進している。また、平成24年度から国道153号の指定区間編入等について要望している。
- 3 飯田市は、長野県の南の玄関口として、リニア駅の高度なトランジットハブ化や交通アクセス、ネットワークの強化、地域振興策等を盛り込んだ「リニア駅周辺整備基本構想」を平成27年6月に策定。引き続き基本計画の策定に向けて、県などと連携しながら検討を進めている。

(県所管部局) 建設部